

# 綾瀬市人口ビジョン（概要版）

## 【人口ビジョンとは】

2014年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国が策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を勘案しながら、本市におけるこれまでの人口動態を分析し、将来の課題を可視化した上で、2060年を見据えた今後目指すべき人口の将来展望を示すものです。

## 本市の人口動態

綾瀬市の人口は

- ・高度成長期に急増し、近年は微増傾向。2015年1月1日現在は83,981人

自然増減は

- ・2014年は出生数748人、死亡数679人で、差し引き69人の自然増
- ・出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向のため、間もなく自然減へ転ずる見込み
- ・2013年の合計特殊出生率は1.41と県平均1.31と比較して高い水準にある

社会増減は

- ・2014年は転入者数3,834人、転出者数3,825人で、差し引き9人の社会増
- ・転入者、転出者とも減少傾向にあり、社会増減はほぼ均衡している

## 現状と課題、及び課題解決に向けた視点

出生について

- ・合計特殊出生率は県内では高い水準、しかし人口置換水準（人口増減が均衡する水準）とは大な隔たりがある状態
- ・「未婚の若者」の増加が出生率の低下に大きく影響
- ・若者の結婚や出産に対する希望は強い

**解決視点** 結婚や出産・子育てに対する希望の実現

転出入について

- ・現状において転出入はほぼ均衡、今後は転出超過に転ずることが見込まれる
- ・仕事に関する理由での転出入が多い
- ・本市への愛着は強いものの、住み続けたいという意向は弱い

**解決視点** 市内での働く場の確保、住環境や子育て環境・学習環境の向上

市内経済の縮小

- ・人口減少による経済規模の縮小、生産年齢人口の減少による労働力の不足

**解決視点** 産業競争力の強化、交流人口の取り込みによる外部需要の獲得、地域産業を支える人材の確保

急速な高齢化の進行

- ・2025年の後期高齢者数は2010年比で2.43倍となり、県内で最も高い伸び率

**解決視点** 高齢者が活躍できる地域づくり、高齢者を地域で支える体制の構築  
その他の影響

- ・市財政への影響、公共施設等の維持・管理、生活環境への影響

**解決視点** 歳出の抑制と新たな税収の確保、公共施設の適切な維持・管理、公共交通など生活環境の維持・向上

## 人口の将来展望

このまま何も対策を講じなければ

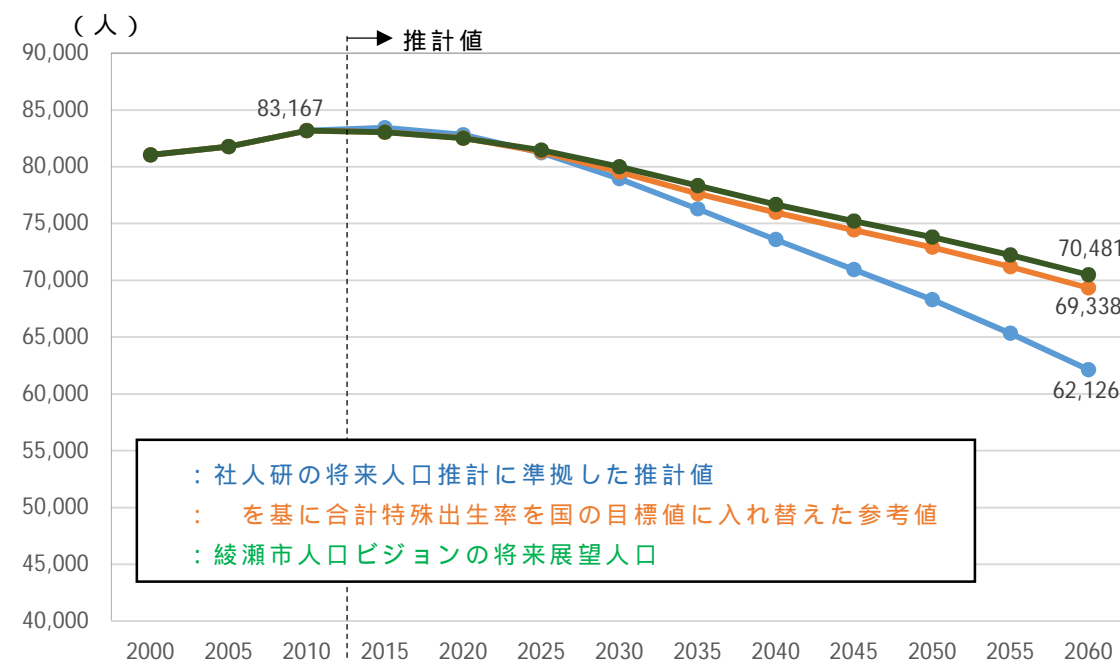
- ・国立社会保障・人口問題研究所（下表では「社人研と表記」）の推計に基づく試算により、2060年には62,126人まで減少する見込み... 下表

綾瀬市がめざす将来の人口（綾瀬市人口ビジョン）

- ・前記の課題解決に向けた各種施策に取り組むことで、2060年に70,481人の人口を確保する... 下表

- ・合計特殊出生率の仮定値は、2030年に市民の希望がすべて実現し1.96へ到達したのち、2035年には人口置換水準である2.07に到達すると仮定

綾瀬市の総人口の将来推計



### 【合計特殊出生率の仮定値について】

社人研の将来人口推計に準拠した推計

2015年 1.57 (社人研推計値)、2020年 1.54、2030年 1.52、2040年 1.52

社人研の将来人口推計を基に、合計特殊出生率を国長期ビジョンの目標値とした推計

2015年 1.41 (2013年実績値)、2020年 1.60、2030年 1.80、2040年以降 2.07

綾瀬市人口ビジョンの将来展望人口 (綾瀬市民の希望出生率を用いた推計)

2015年 1.41 (2013年実績値)、2020年 1.59、2025年 1.78、2030年 1.96、2035年以降 2.07  
2030年に市民の希望がすべて実現し1.96へ到達したのち、2035年には人口置換水準 (人口増減が均衡する水準) である2.07に到達すると仮定